

令和3年度 ワークショップ
貝殻旅行×おばけのマール
「モーニングもういっかい！
—ものがたりのつづきを描こう—」
開催結果報告

日 時：令和4年3月6日(日) 午後2時～3時30分

参加人数：年少～小学生1年生までのお子さん：8人

保護者：10人

参加費：300円

協力：「おばけのマール」文の作者・けーたろう氏

職員：野田、名和、長岡、丹野

令和3年夏に出版された絵本『おばけのマールとモーニングのあとで』（中西出版、え・なかいれい、ぶん・けーたろう）は、市内各所を舞台としており、当館での原画展開催を機に一宮の子どもたちにおなじみの存在となりました。三岸節子と夫・好太郎の絆から生まれたこの絵本を題材に、鑑賞と制作を組み合わせたワークショップを開催しました。



最初に絵本『おばけのマールとちいさなびじゅつかん』の読み聞かせを行いました。北海道立三岸好太郎美術館を舞台に、好太郎作品が多数登場するふしぎなストーリーに、子どもたちも次第に引き込まれていきます。

次に、特別展「貝殻旅行—三岸好太郎・節子展—」へ移動し、実際の作品を鑑賞しました。



先ほどの絵本に登場した作品も多く展示されていて、一見怖さのある作品でも、絵本を介することで、子どもたちも興味をもって近づいていました。



その後、再び講義室に戻って今度は絵本『おぼけのマールとモーニングのあとで』の読み聞かせ。先ほど展示室で見た三岸節子作品も、多数登場しています。



実はこの絵本、マールが「モーニングもういいかい！」という場面で終了しており、その後の展開が読者に委ねられているのです。文の作者・けーたろう先生からの「えほんのつづきを描いてほしい」というメッセージを受けて、今度は子どもたちが想像力をふくらませて制作に取り組みます。



「この後、マールといっしょに縄跳びをする」「おさんぽに行く」「ごちそうを食べる」など、子どもたちならではの自由な発想で、絵を描いていきました。

最後に、文の作者・けーたろう先生から預かっていたお手紙を、代理の「にせたろう」がお渡しして終了となりました。



鑑賞と制作との橋渡しを、絵本が取り持ってくれたワークショップでした。実作品にふれることができるという美術館の環境を生かしたワークショップを、今後も展開していきたいと考えます。(学芸員 野田)